

平成 26 年 12 月 24 日

社会福祉法人大阪暁明館 大阪暁明館病院

1. 施設の概要

所在地：大阪市此花区西九条 5 丁目 4 番 8 号

病床数：482 床

一般病床：392 床（うち回復期リハビリテーション病棟：84 床）

医療療養型病床：90 床

病院HP：<http://www.gyoumeikan.or.jp/>

2. 地域及び施設の特徴

大阪市医療圏は、4 つの基本保健医療圏で構成されています。大阪暁明館病院が属する西部基本保健医療圏（福島区、此花区、西区、港区、大正区、西淀川区）の人口は約 47 万人。

これまで此花区には一般病床を持つ病院は大阪暁明館病院及び大阪市立北市民病院でありましたが、大阪市立北市民病院の事業を継承し、平成 25 年 4 月に機構融資により、JR 環状線西九条駅及び阪神難波線西九条駅から徒歩数分という極めて立地条件の良い大阪市立北市民病院の跡地に移転し、地上 11 階建て、482 床のケアミックス病院を新築しています。



経営の基本理念である「キリスト教精神に基づく全人的医療」の推進のため、移転新築に際し、最新の医療機器と快適な医療環境の充実が図られており、平成 26 年度に創立 100 周年を迎えています。

3. 事業計画の概要

（1）事業計画に至った背景等

今回の事業計画は、大阪暁明館病院（332 病床）と大阪市立北市民病院（150 病床）の病床合併に伴う移転新築計画で、主な建築ポイントは次のとおりです。

① □建物の耐震化及び老朽狭隘の解消

② □診療科目の増設：産婦人科、小児科、耳鼻咽喉科

③ □大阪市立北市民病院の事業継承に伴う増床等

（移転前）一般 256 床（うち一般 163 床、回復期 38 床、障害者 55 床）、療養 76 床、
計 332 床

（移転後）一般 392 床（うち一般 263 床、回復期 84 床、障害者 45 床）、療養 90 床、
計 482 床

④ 診察室の増（12 室→28 室）及び手術室の増（3 室→5 室）

これらの整備により、人口 6.7 万人の此花区唯一の二次救急指定病院としての機能を充実させ、また、介護老人保健施設おとしよりすこやかセンター西部館、暁明館訪問看護ステーション、暁明館訪問ヘルプセンター、暁明館福祉用具貸与センター、大阪暁明館通所介護センター、此花区南西部地域包括支援センター、暁明館西九条クリニック（血液透析センター、泌尿器科外科、西九条デイケアセンター）とともに急性期医療、リハビリテーションから介護・福祉までを統合した地域医療の提供を目的としています。

（２）建築物の概要

工 期	平成 23 年 6 月～平成 25 年 1 月
建築延面積	22,643.24 ㎡
階 数	地上 11 階建て

４．施設整備におけるポイント

機構融資対象となった移転新築計画における施設整備のポイントについて紹介します。

（１）基本コンセプト

大阪市此花区の大阪市立北市民病院跡地に大阪暁明館病院を移転するとともに、新規に利用できる 150 床を利用し、地域の医療水準を向上させ、地域貢献のできる病院を創設するもの。

そのために、アクセス性の向上、医療水準の向上、救急対応、地域連携医療の推進を実現する。

（２）病床規模及び医療機器の拡充

病床数は 482 床のケアミックス病院とし、自院発生の患者のみならず、近隣の急性期病院の受け皿としての機能も付加し、医療機器として CR、MRI、デジタルアンギオ装置等を完備し、透析室、手術室 5 室、リハ室、剖検室などを完備した。

（３）その他

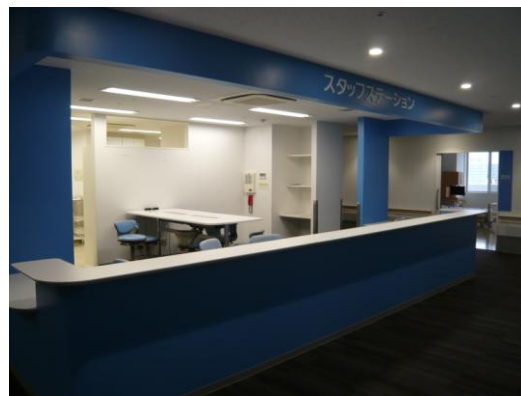
全館 LED 照明を利用し電気消費量を削減、屋上に太陽光パネルを設置し年間で約 53,000 kW の電力を発電（冬場（1 月）で 1 日 98.79kW、夏場（7 月）で 1 日 182.59kW の発電）し、また、発電の過程で発生する熱を冷暖房に有効利用した結果、新病院の床面積が旧病院の約 1.9 倍になっているにも関わらず、電気使用料は、約 1.2 倍にしか上がっていない。また、旧病院で使用していたボイラーを使用しなくなったことから、ガス消費量が従前の約 80%に減少し、ボイラーの冷却水が不用となったことから水道使用料も約 70%に減少しています。

太陽光パネルによる発電量は原油換算で、13,000 リットルで、二酸化炭素の削減につながったことや中庭の集光装置及び地域に開かれた中央ホール等など地域への配慮等が高く評価され、大阪市から「CASBEE 大阪 OF THE YEAR 2013」（大阪市建築物総合環境の保全に寄与する快適で環境に優しい建築物を審査・表彰するもの。）を受賞しています。

注）今回の融資では、太陽光パネル工事は、融資対象外となっています。



(病室)



(スタッフステーション)

5. 施設整備による病院機能の向上

新病院移転前の施設は築 50 年ないし 30 年と老朽化、狭隘化しており、質の高い医療の提供に支障を来していたが、移転後の病院は、急性期病棟、回復期リハ病棟、医療療養病棟、身体障害者療養病棟、他に救急センター、透析センター、SAS（睡眠時無呼吸症候群）センター、健診センターの機能を持ち、新規診療科として産婦人科、小児科、耳鼻咽喉科を整備しています。

新病院建設に加え、立地の優位性もあり、外来及び入院患者数は、順調に増加し、また、医師の補充も進んだ結果、手術件数も増加しています。

看護師の採用増に伴い平成 26 年度には、7 : 1 基準看護を取得し、OT 及び PT の確保も順調で、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 を維持しています。

全面的に踏み切った院内調剤については、待ち時間もなく、患者には好評であり、外来単価も大幅に改善しています。また、1 階の調剤室のガラス窓については、外来患者に調剤業務が確認できるように設置しています。



(8 階案内板)

6. 今後の課題

新病院を中核に介護老人保健施設おとしよりすこやかセンター西部館等の関連施設とともに、急性期医療、リハビリテーションから介護・福祉までを統合した地域医療をめざしたいと考えています。

新病院の完成で医師の応募状況が想定以上であることから、外科系、内科系の既存診療科の医師増員を図り、より一層の医療機能の向上を進め、また、地域外に流出していると考えられる地域の急性期患者を受け入れることができるように、救急医療体制の拡充を進めることを目指しています。

以上